

平成4年度赤潮貝毒監視事業報告 (要 約)

青森県水産増殖センター 柳谷 智・秋山由美子・加藤 徳雄・田村 眞通・濱田
船長外 なつどまり乗組員
青森県環境保険センター 三上 浩二・高橋 政教
青森県水産試験場 涌坪 敏明・黄金崎栄一・伊藤 欣吾・鈴木 史紀
高井開運丸船長外 乗組員
村上東奥丸船長外 乗組員
磯島青鵬丸船長外 乗組員

調査結果の要約を以下に示す（詳細については平成4年度赤潮貝毒監視事業報告書、平成5年、青森県 発行に報告した）。

1. 下痢性貝毒によるホタテガイの出荷自主規制期間は陸奥湾産垂下養殖貝が4月1日～9月4日、陸奥湾産地まき貝が6月11日～8月11日であった。その他の海域は出荷自主規制は行われなかった。まひ性貝毒によるホタテガイの出荷自主規制は行われなかった。
2. 下痢性貝毒によるホタテガイを除く二枚貝の出荷自主規制は暖流系海域産付着二枚貝が5月15日～9月11日、寒流系海域産付着性二枚貝が7月20日～9月11日であった。まひ性貝毒によるホタテガイの出荷自主規制は行われなかった。
3. 陸奥湾東湾における垂下養殖ホタテガイの下痢性貝毒の毒力は記録的に低い水準で推移し、年間最高毒力は過去最低の0.6MU/gについて低く、0.75MU/gであった。一方、西湾における垂下養殖ホタテガイの下痢性貝毒の年間最高毒力は過去最低の1.0MU/gであった。地まき貝の年間最高毒力も記録的に低く、東湾が0.62MU/g、西湾が0.6MU/gであった。
4. ホタテガイを除く二枚貝で規制値以上の下痢性貝毒の毒力が検出されたのは付着性二枚貝のみで、その年間最高毒力は0.5MU/gであった。
5. 陸奥湾東湾における *D. fortii* の出現数は低い水準で推移し、年間最高出現数は310個／tであった。西湾における *D. fortii* の出現数は過去最低の375個／tであった。
6. 太平洋海域における *D. fortii* の出現は低い水準で推移し、年間最高出現数は210個／tであった。まひ性貝毒原因プランクトン (*A. tamarense*) は出現しなかった。
7. 津軽海峡西部海域における *D. fortii* の出現数は低い水準で推移し、年間最高出現数は50個／tであった。
8. 津軽海峡東部海域における *D. fortii* の出現数は低い水準で推移し、年間最高出現数は70個／tであった。
9. *D. fortii* の出現数と毒力は傾向を一つにしているが、単相関をとると必ずしも一致しない。これは *D. fortii* の含有する毒成分量、構成比の違い、ホタテガイの摂餌および代謝速度の違いに起因するものと考えられた。従って、ホタテガイの毒化と *D. fortii* の出現との関係について更に解明を進めるには、毒成分から見た *D. fortii* の毒化の状況、およびこれらのホタテガイへの蓄積、排出の過程を明らかにしていく必要がある。